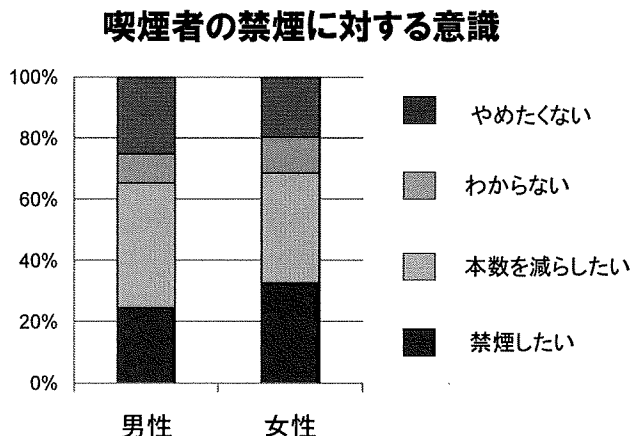


## 真実5 たばこを吸っている人はやめたいと思っている

たばこを吸っている人の多くがやめたいと思っています。でも、やめることはなかなかできません。なぜなら、ニコチン依存症（中毒）という病気だからです。

### ▶ たばこを吸っている人の多くがやめたいと思っている

平成15年度の国民健康・栄養調査では、喫煙者のおよそ3分の2が禁煙したいか、本数を減らしたいと思っていることがわかりました。やめたくない人はおよそ20%と少数派です。



(平成15年 国民健康・栄養調査より)

### ▶ たばこを吸っている人の多くが禁煙を何度も試みている

同じ調査で、喫煙者の半数以上の人（男性54%、女性61%）が、過去に禁煙を試みています。しかも、その回数は、男性で4.6回、女性で3.6回となっています。

つまり、多くの喫煙者がたばこをやめたいと思っているのですが、なかなかうまくいきません。

### ▶ やめられないのは、意思が問題ではなく、薬物中毒だから

このように、たばこがやめられないのは、たばこに含まれているニコチンが依存性を起こす薬物だからです。特に、たばこを開始する年齢が早いほど、ニコチン依存が強くなるとされています。

### ▶ 禁煙でお金の節約を

禁煙するにはどれくらいの費用がかかるのでしょうか。医療機関での禁煙は（自己負担分）は、パッチで約12,000円、飲み薬で18,000円、薬局薬店でのパッチで約25,000円です。かなり高額のように見えますが、たばこの購入費（たとえば、1日1箱で1月約9,000円）に比べると断然お得です。つまり、かかる費用で言えば、喫煙よりは禁煙、でも、最初から吸わないのが一番！

## 禁煙は意外に難しい。けれど、あきらめずに！

禁煙の成功率はどれくらいなのでしょう。これまで行われた禁煙方法の禁煙成功率をまとめた報告によると(米国政府、2008年)、医師の短時間(3分程度)のアドバイスで10.9%、10分以上の相談で22.1%、8回以上の相談と薬を使ったもので32.5%とされています。禁煙はそう簡単ではないのです。

しかし、1回の禁煙で失敗したからといって、あきらめてはいけません。今は、飲み薬、ニコチンパッチ、ニコチンガムなどを使ったいろいろな禁煙方法があります。いろいろな方法を使って、2度、3度と挑戦することで禁煙を成功することができるでしょう。

### 好みと程度に応じて選べる禁煙方法のいろいろ

健康に悪いし、臭いと嫌われるし、吸う場所を見つけるのは大変だし…。禁煙ブームの中で、いろいろな禁煙方法があります。好みに応じて、あなたに合った禁煙方法を選ぶことができます。主な禁煙方法を紹介します。

#### 1. 気合いとやる気でやめる！

まずは、意を決して、自分で禁煙に挑戦してみてもよいかもしれません。周りの人に禁煙宣言するなどすれば、うまくいかかもしれません。

気合いだ！  
気合いだ！  
気合いだー！

ただし、ニコチン依存の強い方は、なかなか気合いとやる気だけでは難しいものです。そのような方は、専門家や薬などを使った別の禁煙方法を。

#### 2. 支えてもらってやめる！

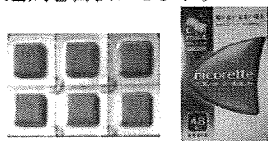
保健所・保健センター、職場などで、禁煙相談が行われています。保健師などの専門家があなたの禁煙をサポートします。専門家のサポートだけでなく、禁煙したい人が集まることで、お互い助け合い、励まし合うことで禁煙の成功率が高まります。また、最近は、インターネットを使った禁煙プログラムもあります(禁煙マラソンなど)。

#### 3. 噛んでやめる！

##### <ニコチンガム>

薬局薬店で購入できます。たばこを吸いたくなった時に、1回1個をゆっくりかみ、離脱症状を抑えます。12週間を目安にします。

ミント風味のものもあります。  
1個100円程度。

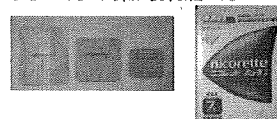


#### 4. 貼ってやめる！

##### <ニコチンパッチ>

皮膚からニコチンを吸収させます。ニコチンパッチには、医療機関で使うものと薬局薬店で買えるものがあります。ニコチン依存の高い方は医療機関で、そうでない方は薬局薬店で。

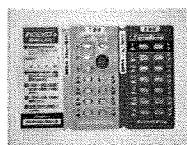
薬局薬店で買えるものは1枚300円程度。徐々に小さなパッチになっていきます。



#### 5. 飲んでやめる！

##### <飲み薬>

飲み薬の禁煙補助薬が医療機関で使われるようになりました。ニコチンは含まず、禁煙時の離脱症状だけでなく、禁煙による満足度も抑制します。禁煙する1週間前から飲み始め、12週間服用します。



バレニクリン(商品名チャンピックス)

- ・ 医療機関でのニコチンパッチと飲み薬による禁煙指導は保険が適用されます。

## 真実6 世の中はたばこが嫌いな人であふれている

たばこの煙や臭いが嫌い、たばこを吸う人が嫌いという人が増えています。そして、たばこを吸う人はとても肩身の狭い思いをしています。たばこを吸うのはカッコ悪いのです。

### ▶ みんなたばこを迷惑と思っている！

「はっきり言ってたばこのけむりはくさいと思います。いやだなあ〜と思います。でも、なんだかそう言ったら悪いみたいに思ってしまう」（小学校5年生）

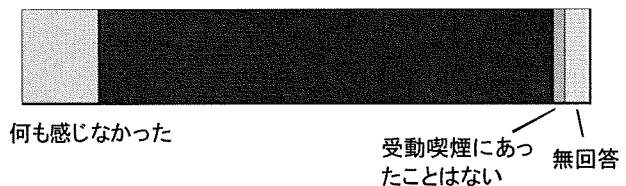
そうですね。たばこのケムリには本人だけでなく周囲の人のからだにも悪いものがたくさん、ふくまれています。そんなケムリを、いやだなあと思うのは、悪いことでしょうか。

神奈川県では、2534人にたずねてみました。大勢の人が、たばこのケムリはいやだと思っているのがわかりますね。

### 多くの人が迷惑に思っています

あなたはこれまで受動喫煙にあったとき、どのように感じましたか。次の中から1つ選んでください。

迷惑に思った 80%



(神奈川県における受動喫煙の現状 2008年1月 神奈川県福祉保健部報告書より)

### ▶ みんなたばこを不快だと思っている！

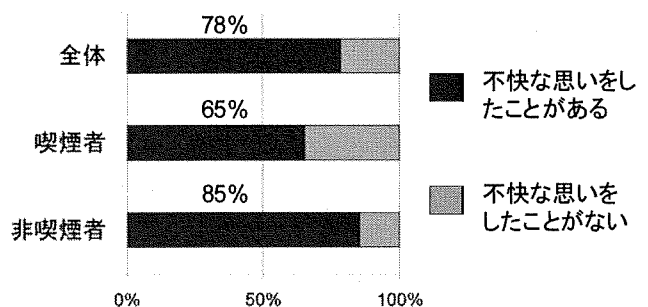
次は、ファイザーという会社がやった調査です。飲食店でたばこのケムリでいやな思いをした人たちにたずねました。

たばこのケムリはくさい、たばこのケムリはいやだと、思うのは正しいことなのですよ。

神奈川県では、受動喫煙（じゅどうきつえん）をふせぐための条例（じょうれい）が作られました。日本ではじめての条例です。でも世界では、もっときびしい法律や条例がたくさんできていて、受動喫煙をふせいでいます。

### 多くの人が不快な思いをしています

禁煙席を選んだのに、喫煙席からタバコの煙が流れてくるなど、不快な思いをした事がある人の割合



(飲食店での受動喫煙に関する意識調査 2008年10月)

早く日本でも、受動喫煙がなくなる日が来るといいね。

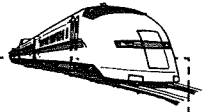
## 肩身の狭い喫煙者



### 職場で

喫煙ルームに行ったり、外に吸いに行ったりすることで、仕事が中断され、能率が落ちます。

### 乗物で



乗り物も駅も禁煙が増えています。喫煙者はずっと我慢しなければなりません。いっそ、禁煙！

### 街中で

路上禁煙が増えています。吸ってしまうと罰金も。路上ではたばこを吸わないのは常識になりました。

### 公共施設で

全ての公共機関が禁煙・分煙になっています。吸う場所を探すだけでもひと苦労。

### 飲食店で

禁煙・分煙の店が急増中です。他の客やデートの相手にも嫌われます。喫煙で食べ物も美味しくないし。

### 家で

煙と臭いは嫌われる。換気扇の前やベランダで吸ったり、家の外に吸いに行ったり・・・。(・\_・)

## たばこを吸うのは社会的に損！

### 就職に不利になる！？

喫煙者は採用しないという会社も現れています。喫煙者は病気になりやすく、生産性を落としたり、医療費をあげたりして、会社への負担を増す。自己管理ができない人と思われるようです。

### 保険に入れない！？

たばこを吸う人は病気になりやすい。病気になりやすい人は、保険の負担を多くするのは当然。海外では一般的？ 日本でも導入？

### 家計に負担かける！

たばこ1箱吸うと、1カ月で約1万円、1年間で約12万円、一生(50年間)では約600万円。車が数台買えますね。

## 真実7 たばこをやめられないのは国や社会である

たばこがこれだけ悪いとわかったなら、たばこの販売をやめればいいのに。それができないのは、たばこの販売をやめると、どこかで誰かが困ると思っているからです。

### ▶ たばこがなくなって困るのは（1） たばこによる税金が減る自治体や国

たばこによる税金は年間 2.3 兆円（2006 年度）。逆に、たばこによる病気等での社会的な損失は 7.4 兆円（1999 年）とされています。たばこで入るお金と出ていくお金を比較すると、実はたばこは社会的に損するのです。

#### たばこによる収入（税金）と社会的損失の比較

たばこによる税金（2006 年度）（億円）		たばこによる社会的損失（1999 年）（億円）	
国たばこ税	9,271	喫煙による医療費	13,086
たばこ特別税	2,176	喫煙による労働力損失	58,454
都道府県たばこ税	2,807	火災による財産損失と消防費用	2,194
市区町村たばこ税	8,602	その他（吸殻処理費用など）	52
合計	22,856	合計	73,786

日本たばこ産業株式会社ホームページ、山口県たばこ対策ガイドラインより

### ▶ たばこがなくなって困るのは（2） たばこを売る人たち

たばこは、コンビニ、スーパー、個人経営の店（街のたばこ屋さん）などで売られています。自動販売機で買うのにカード（タスポカード）が必要になったため、コンビニでのたばこの売上が増えました。自動販売機に頼っていたたばこ屋さんは、売上が激減し、お店をやめるところも出ました。

### ▶ たばこがなくなって困るのは（3） たばこの葉っぱを作る人たち

たばこの原料となる葉たばこは、島や山の中など、他のものが作りにくい所でも育ちます。そうした所での安定した生活のために、国が価格を補償して葉たばこを買い取るしくみができ、それが今でも残っています。また、そうした所では野菜や果物など他の商品価値の高いものに換えることが難しく、たばこ農家は葉たばこづくりをすぐにやめることができません。

このように、たばこを作って、売って、税金を稼ぐ国や社会の仕組みができあがってしまったのです。たばこをやめようと言うと、農業、たばこを作る会社、税金に関係する人たちが反対するのはそのためです。

たばこがなくなると困る人がいるのも確かです。でも、時代の変化によって、なくなったり、もうからなくなったりする仕事ができるのは仕方のないことです。みんなで知恵を出し合って、たばこのない社会を作っていきましょう。皆さん一人一人、そして、国や社会を代表する人たちの「たばこをやめよう！」という英断が必要です。だって、たばこは、何よりも大切な人の命を奪うものなのですから。

## たばこ販売の歴史

### 兵隊さんに配られたたばこ

戦争中には、兵隊さんや、国民に、配給として与えられていたこともありましたが、そんなわけで、1949年頃には、男性の8割以上が喫煙していた時期もあるのです。

### たばこは国が売っていた

日清・日露戦争のころから、国のお金が足りなかったため、葉たばこ作りから、製造・流通、たばこの販売まで、国の独占事業（専売）として進められてきました。吸いだすとやめられないたばこは税金を稼ぐのもってこいのものでした。1980年代に、日米貿易摩擦など状況が変わったため、国営企業の民営化と、外国製品の販売自由化とが一気に進められました。

## たばこの規制に関する枠組条約（FCTC）

たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約（WHO Framework Convention on Tobacco Control：略称 WHO FCTC）は、2003年に WHO 総会で採択され、2005年に発効されたもので、締約国は、たばこ消費の削減に向けて、広告・販売への規制などが求められます。

### 2010年までに屋内は完全禁煙になる！？

FCTCに基づくガイドラインでは、2010年2月までに、すべての屋内の公衆の集まる場所、すべての屋内の職場、すべての公衆のための交通機関そして他の公衆の集まる場所（屋外あるいはそれに準ずる場所）を完全禁煙にすることが課せられています。もちろん、日本もこれに従わないといけませんので、2010年には完全禁煙になることが期待されています。

### FCTCを守らないアメリカ

FCTCを締結してない（守らない）数少ない国のひとつがアメリカです。アメリカではたばこはとても重要な産業で、たくさんのたばこを国外にも輸出しています（日本のJTもたくさん輸出しています）。国内外でたばこが売れなくなると困ったことになるのです。自分の国だけでなく、他の国の人の健康と命を引き換えに、お金儲け・商売をしようとしているのはとても悲しいことです。

## 真実8 多くの人はこれらの真実を知らない

たばこにはこんなによくはないことばかり。なのに、なぜ、まだたばこを吸う人がたくさんいるのでしょうか。それは、これまで、こうしたたばこに関する事実を十分に知らされていなかったからです。

### たばこに関する事実を みんなに教えてあげましょう！

### お友達に、家族に、周りの人に

作 成 山口大学医学部地域医療学 福田吉治  
(平成 19～21 年度厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「たばこ対策による健康増進策の総合的な実施の支援かつ推進に関する研究」研究分担者)

執 筆 繁田 正子 (京都府立医科大学医学研究科地域保健医療疫学)  
高橋 裕子 (奈良女子大学保健管理センター)  
埴岡 隆 (福岡歯科大学口腔保健学)  
原田 久 (碧水会長谷川病院)  
福田 吉治 (山口大学医学部地域医療学)  
三浦 秀史 (禁煙マラソン事務局)  
吉見 逸郎 (国立保健医療科学院)  
(50 音順)

発行日 平成 21 年 8 月 26 日 (平成 22 年 2 月改訂)

## II. 研究成果の刊行に関する一覧表



## Ⅱ. 研究成果の刊行に関する一覧表

### 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
林謙治			青少年の健康 リスク	自由企画	東京	2008	
繁田正子	喫煙治療学としての禁煙指導・支援～一般外来・禁煙外来での治療～	井埜利博	喫煙病学	最新医学社	大阪	2007	236-265
繁田正子	揺れるあなたと考える・平成タバコ事情	NPO京都禁煙推進研究会	新版・さよならタバコ卒煙ハンドブック	京都新聞出版センター	京都	2007	1-16
繁田正子	禁煙指導.	山口徹ほか	2008今日の治療指針	医学書院,	東京	2008	202-204
繁田正子	COPDの治療・禁煙(禁煙補助薬をふくむ)	永井厚志ほか	呼吸器 Common Diseaseの診療 —COPDのすべて	文光堂	東京	2008	In print
繁田正子	禁煙		COPDのすべて	文光堂	東京	2008	178-184
繁田正子	高校・大学での教育、成人に向けた教育	日本禁煙学会	禁煙学第2版	南山堂	東京	2010	254-259
Hanioka T, Ojima M	Passive smoking in oral health research	Fong CB	Smoking and health research frontiers	Nova science Publishers, Inc	Hauppau NY	2007	213-230
埴岡隆	第3章8つの NEWS 2.喫煙	吉江弘正,高柴正悟編	歯周病と7つの 病気	永末書店	東京	2007	154-158
埴岡隆	喫煙による口腔 ・歯科疾患/第5 章 成人領域での 喫煙と健康障 害	井埜利博監修	喫煙病学	最新医学社	大阪	2007	167-176
埴岡隆	たばこと歯周 病-「しっかり 禁煙」すすめよ う	澁川義宏, 新井高編	歯周病の視点 からみた国民 の健康増進	医歯薬出 版	東京	2008	200-203
高橋裕子	インターネット プログラム～禁 煙マラソンとス トレスマネジメ ント	井埜利博 監修	喫煙病学	最新医学社		2007	266～ 277

高橋裕子、三浦秀史	インターネットを用いた禁煙支援	日本禁煙科学会	禁煙科学	分光堂	東京	2007	103-107
高橋裕子、三浦秀史	インターネットを用いた禁煙支援	日本禁煙科学会	禁煙科学	分光堂	東京	2007	103-107
三浦秀史	禁煙指導	日本遠隔医療学会	テレメンタリング	中山書店	東京	2007	120-129
金子郁容	禁煙マラソンにおけるソーシャルキャピタル	日本禁煙科学会	禁煙科学	分光堂	東京	2007	108-112
三浦秀史	禁煙指導	日本遠隔医療学会	テレメンタリング	中山書店	東京	2007	120-129
(監訳) 福田吉治、八幡裕一郎、今井博久	一目でわかるヘルスプロモーション：理論と実践ガイドライン	(監訳) 福田吉治、八幡裕一郎、今井博久	一目でわかるヘルスプロモーション：理論と実践ガイドライン	国立保健医療科学院	和光市	2008	pp38
福田吉治、他	大人が子供たちに伝えなければならないたばこに関する8つの真実	福田吉治	大人が子供たちに伝えなければならないたばこに関する8つの真実	山口大学医学部地域医療学	山口	2009	pp16
黒澤一	患者教育の考え方と方法	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会呼吸リハビリテーション委員会、日本呼吸器学会ガイドライン施行管理委員会、日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会・呼吸リハビリテーションガイドライン策定委員会、日本理学療法士協会呼吸リハビリテーションガイドライン作成委員会	呼吸リハビリテーションマニュアル—患者教育の考え方と実践—	照林社	東京	2007	22-38
黒澤一	それでも「たばこ」を吸いますか？それでも「たばこ」を吸わせますか？—たばこと健康について—	東北大学保健管理センター	保健のしおり	東北大学保健管理センター	仙台	2007	
田中英夫(単著)			禁煙ポケット手帳	法研	東京	2008	

田中英夫 (単著)			タバコによる健康被害と禁煙成功のコツ	日本家族計画協会	東京	2008	
谷口千枝		田中英夫	事例で学ぶ禁煙治療のためのカウンセリングテクニック	看護の科学社	東京	2009	

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
林謙治	生活習慣病の予防	産科と婦人科	75	569-573	2008
林謙治	保健医療系大学生の喫煙問題	思春期学	26(1)	13-16	2008
林謙治	たばこと青少年の健康	産婦人科治療	94(4)	431-434	2008
Ogawa M, Yanoma S, Nagashima Y, Okamoto N, Ishikawa H, Haruki A, Miyagi E, Takahashi T, Hirahara F, Miyagi Y	Pradoxical discrepancy between the serum level and the placental intensity of PP5/TFPI-2 in preeclampsia and/or intrauterine growth restriction: possible interaction and correlation with gylpican-3 hold the key	PLACENTA	28	224-232	2007
Hirabayashi Y, Miyashita M, Kawa M, Kazuma K, Yamashita K, and Okamoto N	Factors relating to terminally ill patients' willingness to continue living at home during the early care after discharge from clinical cancer centers in Japan	Palliative & Supportive Care	5	19-30	2007
大重賢治、岡本直幸、水嶋春朔	米国における保険者のがん検診サービスの枠組みに関する調査	公衆衛生	71	102-107	2007
川上ちひろ、岡本直幸、大重賢治、朽久保 修	がん検診受診行動に関する市民意識調査	厚生の指標	54(5)	16-23	2007
Hasizume T, Yamada K, Okamoto N, et al.	Prognostic Significance of Thin-Section CT Scan Findings in Small-Sized Lung Adenocarcinoma	CHEST	133	441-447	2008
Okamoto N, Miyagi Y, Chiba A, et al.	Multivariate discrimination functions composed with amino acid profiles (Amino Index) as a novel diagnostic marker for breast and colon cancer	EJC	6(Supp 1.)	47-48	2008
Okamoto N	A history of the cancer registration system in Japan	Int J Clin Oncol	13	90-96	2008
Sukegawa A, Miyagi E, Okamoto N, et al.	Anxiety and Prevalence of Psychiatric Disorders among Patients Awaiting for Suspected Ovarian Cancer.	J Obstetrics and Gynecology	34	543-551	2008

Ogino I, Uemura H, Okamoto N, et al.	Reduction of prostate motion by removal of gas in rectum during radiotherapy.	Int. J. Radiation Oncology Biol. Phys.	72	456-466	2008
Hasizume T, Yamada K, Okamoto N, Saito H, Oshita F, Kato Y, Ito H, Nakayama H, Kameda Y, and Noda K	Prognostic Significance of Thin-Section CT Scan Findings in Small-Sized Lung Adenocarcinoma	CHEST	133	441-447	2008
Pham TM, Fujino Y, Okamoto N, et al.	Reproductive and menstrual factors and thyroid cancer among Japanese: the Japan Collaborative Cohort Study, J.	J. Women's Health		in print	2009
Okamoto N, Miyagi Y, Chiba A, et al.	Diagnostic modeling with differences in plasma amino acid profiles between non-cachectic colorectal/breast cancer patients and healthy individuals.	Int J. Medicine and Medical Sciences	1	1-8	2009
Sakuma Y, Okamoto N, Saito H, et al.	A logistic regression predictive model and the outcome of patients with resected lung adenocarcinoma of 2cm or less in size:	Lung Cancer.	65	85-90	2009
Numasaki R, Miyagi E, Okamoto N, et al.	Analysis of stage IVB endometrial carcinoma patients with distant metastasis: a review of prognoses in 55 patients	Int J Clin Oncol	14	344-350	2009
Miyakawa K, Tarao K, Okamoto N, et al.	High serum alanine aminotransferase levels for the first three successive years can predict very high incidence of hepatocellular carcinoma in patients with Child Stage A HCV-associated liver cirrhosis.	Scand J Gastroenterol	44	1340-1348	2009
Shigeta M, Kadono M, Ozasa K, et al	The influence of alcohol consumption and smoking on quality of sleep among Japanese male.	Sleep and Biological Rhythm	5(supp 11)	190	2007
繁田正子	煙が縁になって円になった	地域保健	39(4)	In print	2008
繁田正子	喫煙と肺癌.	呼吸と循環	56(4)	419-424	2008
繁田正子	喫煙と肺癌	呼吸と循環	56(4)	419-424	2008
繁田正子	地域・医療・行政が連携して進めるタバコフリーー煙が縁になって円になったー	月刊地域保健	39(4)	36-45	2008
繁田正子	喫煙と臨床8「特定健診」	治療学	43(2)	203-207	2009
繁田正子	喫煙のリスク～成人女性	薬局	60(5)	(印刷中)	2009

繁田正子	国際的視点から見る日本のタバココントロールの現状～肺癌検診関係者や肺癌学会はタバコとどう対峙すべきか～	肺癌	49	(印刷中)	2009
繁田正子	国際的視点からみる日本のタバココントロールの現状.	日本肺癌学会雑誌	49	113-121	2009
繁田正子	喫煙のリスク(成人女性)	薬局	60	2340-2346	2009
繁田正子	喫煙と臨床(特定健診)	治療学	43	203-207	2009
繁田正子	禁煙対策は特定健診・保健指導の要になる	地域保健	40	52-55	2009
繁田正子	タバコ学事始め	京都府立医大雑誌	118	699-709	2009
繁田正子	禁煙治療の実際(カウンセリング・行動療法)	Modern Physician	29	1739-1743	2009
繁田正子	禁煙治療の実際(薬物療法)	Modern Physician	29	1748-1749	2009
繁田正子	禁煙をめぐるメリット・デメリット	THE LUNG perspective	18	44-48	2009
山門桂、繁田正子	特定保健指導における禁煙支援とは?	肥満と糖尿病	7(5)	690-693	2008
山門桂、北村真紀、繁田正子、他	医師・看護職連携による健診時禁煙指導の有効性	日本人間ドック学会誌	23(1)	27-31	2008
Haresaku S, Hanioka T, Tsutsui A, Watanabe T	Association of lip pigmentation with smoking and gingival melanin pigmentation.	Oral Diseases	13	71-76	2007
Hanioka T, Ojima M, Hamajima N, Naito M	Patient feedback as a motivating force to quit smoking.	Community Dent Oral Epidemiol	35	310-317	2007
Hanioka T, Ojima M, Tanaka K, Aoyama H	Association of total tooth loss with smoking, drinking, alcohol and nutrition in elderly Japanese: Analysis of national database.	Gerodontology	24	87-92	2007
Hanioka T, Ojima M, Tanaka K, Aoyama H	Relationship between smoking status and tooth loss: Findings from national databases in Japan.	J Epidemiol	17	125-132	2007
Ojima M, Hanioka T, Tanaka K, Aoyama T	Cigarette smoking and tooth loss experience among young adults: a national record linkage study.	BMC Public Health	7	313 (E-pub)	2007
Hanioka T, Nakamura E, Ojima M, Tanaka K, Aoyama H	Association of dental caries of 3-year-old children with smoking status of parents	Paediatrics Perinatal Epidemiology	22	546-550	2008
Hanioka T, Ojima M, Tanaka H, Naito M, Hamajima N, Matsuse R	Intensive Smoking-cessation Intervention in the Dental Setting	J Dent Res	89	66-70	2010
Ojima M, Hanioka T	Destructive effects of smoking on molecular and genetic factors of periodontal disease	Tobacco Induced Diseases	8	4 (E-pub)	2010

Haresaku S, Hanioka T, Yamamoto M, Ojima M	Impact of a tobacco curriculum on smoking behaviour and attitudes toward smoking in dental students in Japan: a three-year follow-up study	Int Dent J		In press	2010
埴岡 隆, 稲葉大輔, 平田幸夫, 雫石聡, 川口陽子	禁煙推進委員会報告「たばこのない世界を目指して」3. 歯科における禁煙診療.	口腔衛生学会雑誌	57	214-220	2007
埴岡 隆	歯周病のなりたち/特集 実施医家に必要な口腔ケアの知識	臨床と研究	84	910-914	2007
埴岡 隆, 稲葉大輔, 平田幸夫, 雫石聡, 川口陽子	禁煙推進委員会報告「たばこ箱の画像警告表示への口腔画像の採用について」	口腔衛生学会雑誌	57	136-138	2007
埴岡 隆, 稲葉大輔, 平田幸夫, 雫石聡, 川口陽子	禁煙推進委員会報告「たばこのない世界を目指して」2. 喫煙および禁煙の口腔の健康および歯科治療への影響	口腔衛生学会雑誌	57	48-53	2007
埴岡 隆	第4部 歯科領域での禁煙診療に取り組みにあたって/特集 禁煙診療における患者対応と最新動向	歯科衛生士	31	34-39	2007
埴岡 隆	子どもの口腔内へのタバコによる健康影響/ミニ特集 喫煙による子どもの健康被害	小児科臨床	61	397-404	2008
埴岡 隆	4. 歯科の立場から 第7回禁煙推進セミナー Smokeless Tobaccoはharm reductionに役立つか? それとも”たばこ; どんな形や装いでも命取り”(WHO, 厚生労働省訳)か?	循環器専門医	16	370-374	2008
稲垣幸司, 野口俊英, 大橋真弓, 細井延行, 森田一三, 中垣晴男, 埴岡 隆, 栗岡成人, 遠藤明, 大谷哲也, 磯村 毅, 吉井千春, 加濃正人	妊婦の口腔衛生、喫煙および受動喫煙に対する意識と社会的ニコチン依存度	日本禁煙学会雑誌	3	120-129	2008
埴岡 隆	歯科, 無煙たばこによるハームリダクション 特集 禁煙を科学する	総合臨床	57	2164-2167	2008
埴岡 隆	歯科・口腔領域の研究成果と対策および無煙たばこ対策	公衆衛生	72	549-544	2008
埴岡 隆	喫煙による子どもの健康被害 7. 子どもの口腔内へのタバコによる健康影響	小児科臨床	61	397-404	2008
高橋裕子	大学禁煙化プロジェクト	大学と学生	12	28-32	2007
三浦秀史, 高橋裕子	保健と医療の語りとアート 禁煙に見るナラティブとアート	日本保健医療行動科学学会	22	71-76	2007
三浦秀史, 高橋裕子	禁煙に見るナラティブとアート	日本保健医療行動科学学会年報	22	71-76	2007
三浦秀史	ITを用いた禁煙指導とは?	肥満と糖尿病	Vol.6/№3	515-516	2007

三浦秀史	禁煙マラソンって？	D H s t y l e	Vol.1/ №9	46	2007
清原康介、三浦秀史、高橋裕子	大分市におけるタクシー全車禁煙化～実施1年後のタクシー会社経営者への調査報告	禁煙科学	Vol.1/ №2	16-19	2007
三浦秀史	I Tを用いた禁煙指導とは？	肥満と糖尿病	6(3)	515-516	2007
三浦秀史	禁煙推進の現状とノウハウ	総合臨床 特集 禁煙を 科学する	57(8)	2081-2085	2008
三浦秀史	職場の力を結集して「禁煙」のその先にあるそれぞれの楽しみを手に入れよう	地方公務員安全と健康フォーラム	69	27-28	2008
伊藤裕子、高橋裕子、三浦秀史、他	大分県におけるタクシー全車禁煙化～タクシー乗客への調査報告	禁煙科学	2(2)	33-37	2008
海老原泰代、三浦秀史、高橋裕子	電子メールを用いた禁煙後の体重コントロール支援プログラムの開発	禁煙科学	2(4)	15-21	2008
福田吉治、中尾裕之、八幡裕一郎、今井博久	喫煙および自覚的健康感との関連性における所得関連指標の比較	日本衛生学会 雑誌	63(2)	594	2008
福田吉治	ポピュレーションアプローチは健康格差を拡大させる？ vulnerable population approachの提言	日本衛生学会 誌	63	735-738	2008
黒澤一	呼吸リハビリテーションとガイドライン	Med Reha	82	25-31	2007
黒澤一	禁煙学（書評）	日本医事新報	4337	35	2007
黒澤一	症例呈示（関心期）—喫煙継続と禁煙の相反する潜在希望をもった一例	Modern Physician	29	1772-1774,	2009
黒澤一	症例呈示（無関心期）—呼吸器感染症状で来院しCOPDの説明から禁煙指導につなげた一例	Modern Physician	29	1769-1771	2009
Hayashiono Y, Tanaka H, et al.	A prospective study of passive smoking and risk of diabetes in a cohort of workers.	Diabetes Care	31	732-734	2008
田中英夫	禁煙治療・指導の変遷	治療学	43(2)	115-118	2009
Shitara K, Matsuo K, Tanaka H et al.	Heavy smoking history interacts with chemoradiotherapy for esophageal cancer prognosis: a retrospective study	Cancer Sci	in press		2009
田中政宏、田中英夫、谷内佳代、他	がん専門病院における禁煙支援クリニカルパスの実施.	厚生の指標	56(15)	13-19	2009
田中政宏、谷中佳代、田中英夫、他	医療機関職員の喫煙状況調査 全国がんセンターモデル調査.	公衆衛生	73	154-158	2009

田中英夫	禁煙治療・指導	治療学	149(2)	115-118	2009
Tamura U, Tanaka T, Tanaka H, et al.	Changes in weight, cardiovascular risk factors and estimated risk for coronary heart disease following smoking cessation in Japanese male workers: HIPOP-OHP Study	J Atheroscler Thromb	17(1)	12-20	2010
細野助博	多摩地域再チャレンジ支援学習システムの構築と実践	教育委員会月報	59(5)	18-22	2007
細野助博	「学び直し」の必要性和大学の役割	マナビィ	27(2)	6-7	2008
細野助博	価格誘導政策のターゲットは誰か—価格弾力性をめぐる研究成果と今後の政策展望	公衆と衛生	72(7)	41-45	2008
村上了太	タバコ企業の社会的責任への取り組みとその課題	比較経営研究	32	79-92	2008
村上了太	酒類とタバコの利害関係者のあり方に関する国際比較研究	経済論集（沖縄国際大学）	5(1)	57-72	2009
村上了太	医療従事者以外の利害関係者によるタバコ対策—企業の社会的責任を含めた経営学的検討—	経済論集（沖縄国際大学）	6(2)	97-110	2010



